

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ ICT を適宜活用し、視覚的な資料の読み取り、生徒同士の学びあいを行うことができた。
- ・ 毎時の授業冒頭や、適切な場面で既習事項の確認テスト等を行い、基礎・基本の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・ 引き続き、ICT を適宜適切な場面で活用し、視覚的に把握する学習や資料活用、思考力を高める取り組みをより一層充実させていく必要がある。
- ・ 定期的に既習事項の確認テスト等を行い、基礎・基本の定着を図るとともに、資料の読み取りや考えをまとめる時間を確保する。
- ・ 生徒同士が伝え合い、学びあう場面をより設定する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値をやや下回っている。歴史的分野では、現代の方が正答率が低かった。		
第2学年	歴史的分野は目標値を上回っている。地理的分野や、複数の資料を読み取って判断する問いで正答率が低く、課題がある。	地理的分野では、「我が国の農林水産業」が目標値を下回った。歴史的分野では、古代に遡るほど正答率が低かった。	
第3学年	地理的分野では「日本の諸地域」が目標値を下回り、歴史的分野では「江戸時代」が目標値を下回った。「明治時代」については区平均を上回った。	地理的分野では「世界の諸地域」の南米・豪州などが目標値を下回り、歴史的分野では弥生時代に関する問いで正答率が低い。	地理的分野では「世界の諸地域」の南米・豪州などが目標値を下回り、歴史的分野では弥生時代に関する問いで正答率が低い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
政治的分野の正答率が低かった。 歴史的分野では、古代の歴史について目標値を上回っていた。	複数の資料から考察することが課題だと考えられる。 複数の出来事を整理し、流れをつかむことも今後の課題である。	読み取りは概ねできているが、そこから何が分かるかを適切に書くことが課題だと考えられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な語句の理解がやや目標値を下回っている。 歴史的分野の理解はある程度定着していると考えられる。	概ね目標値を超える、または目標値に迫っていた。特に、複数の資料から考察することが課題だと考えられる。	記述問題における無回答の割合も一定程度見られたため、得た知識や読み取れることを出力することが課題である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の諸地域に関する正答率が低く、出来事だけでなく、社会の変化などの知識を身につけることが課題である。	地理の資料の読み取りおよび、地理の記述式が目標値に達しておらず、地理の読解・表現力の向上が課題である。	言葉の特徴や使い方に関する事項が目標値を大きく下回っており、社会的事象について調べたり、表現したりする力の向上が課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的事項を自ら調べ、まとめる活動を通して、知識を分類・整理していく力を高めていく。	地図・グラフ資料の問題演習をスモールステップで重ねていくことで、判断するポイントを身につけていく。	チャレンジ問題として「なぜ〇〇？」という問いに考えることを通して、課題を読み取り向き合う習慣をつける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語句単品ではなく、知識のつながりの中で単語を押さえられるようにする。 資料の読み取りを継続して行う。	複数の資料を読み取って解答する機会を設け、考えたことを表現する力を身につけさせる。	広く社会的事象に目を向ける機会を設定したり、生徒同士が伝え合う機会を設定するなどする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会的事象を多面的・多角的に分析する力を醸成するために、複数の資料を効果的に活用し、その意味や働き等について深く理解することができるよう、思考ツールやICTを使って整理・分析しやすくする。	社会的事象を多面的・多角的に分析する力を醸成するために、複数の資料を効果的に活用しながら、事実や根拠を基に、他者と交流したり、表現したりする機会を意図的に設定する。	社会的事象を多面的・多角的に分析する力を醸成するために、学習課題を追究するための視点を明確化し、複数の資料や他者と交流することで、主体的に学習に取り組むことができるように授業をコーディネートする。